



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

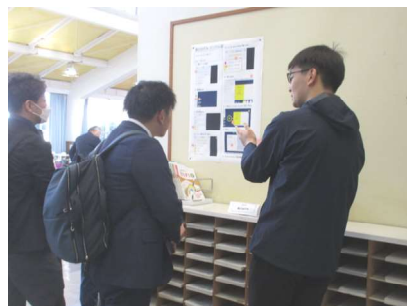
第 21 号

2024 年 2 月 19 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校 学校視察日での運営支援

2月13日(火)、オープン・スクールとして全国的にも有名な緒川小学校に250名ほどの学校関係者の方が視察にいらっしゃいました。年3回ある「学校視察日」の中で、今回が今年度最後の視察日でした。大学が春休みということもあり、今まで一番多い13名のSPさんが参加してくれました。(※活動内容については、前回の「学校視察日」についてまとめた「SP通信 第9号」をご覧ください)今回参加してくれた13名のうちのほとんどのSPさんが、町内の各小中学校でウィークリーSPとして活動しています。また、今回が東浦町でのSP活動が初めてのSPさんもいましたが、地元で学校ボランティアに参加をしているとのことでした。学校現場での活動経験があるSPさんばかりだったこともあり、どのSPさんも各自で様子を見たりお互いにコミュニケーションをとったりして、かなり柔軟に、運営も子どもたちへの対応もしてくれました。それができるのがすごいです。「臨機応変に対応してね」と最初に伝えたものの、そのクオリティに驚きました。学生のうちにこれだけ気づき、動ける人はなかなかいないのではないかと思います。私のつたない言葉ではその“すごさ”を表しきれないので、SPさんの感想を載せたいと思います。それぞれがどんな視点で参加をし、どんな学びがあったのかがよく分かる、素晴らしい感想ばかりです。ぜひご一読ください。



教員の立場に視点を当てて活動を行ってみて、教員の方々が楽しそうに、自信を持って取り組んでおられる姿がとても印象的でした。また、今回、質疑応答を聞いていて、週プロや「生きる」という活動では、子どもが自分でプランニングして自分で時間配分して考えて行動する練習が大切になるのだと感じました。その“選択肢の支援”が教師の役割で、こういった活動の時間は普通の学校ではないかもしれませんが、私は積極的にチャレンジしたいと思いました。 【石浜西小WSP 東海学園大学 4年生】

初めて週プロを見ましたが、やはり自由進度学習には何より教師の準備が大切だということを改めて実感しました。準備の段階では、子どもたちが「知りたい！」「学びたい！」「楽しみ！」と思えるようなしかけや工夫を盛り込み、自ら学ぶ力を育てられるよう、構成していくことが大切だと思いました。来年度からは、まず自分の学級で“学びのコーナー”などを設けて、子どもたちの興味を引き出す工夫を常に考え、試していきたいと思います。 【緒川小WSP 椋山女学園大学 4年生】

私は、おがわっ子として過ごしてきたので、知っていることも多かったのですが、教員としての視点で改めて緒川小を見ることができて、とても有意義な時間になりました。教員として活動を見てみて、一人一人が自由に活動をして、多様性がある、「個」を大切にしながらも、集団的に何かを学ぶこのスタイルはもっと広がっていくべきだと思いました。私が教師になっても、一人一人に向き合うことを大切にしていきたいと思いました。 【緒川小WSP 東海学園大学 1年生】

今日は緒川小でオープン・スクールを見ました。最後の質疑応答の中の、働き方改革のとらえ方がとても印象に残っています。私は、働き方改革というと、仕事の時間だけに焦点を当てていました。しかし、「若手からアイデアを、ベテランから技を学ぶ」といった、一人で背負い込むのではなく、学年で指導していくことが働き方改革ではないかと聞き、はっとしました。また、教師の原点である、「目の前の子どもとしっかり向き合っているか」を、再度意識してSP活動に改めて取り組んでいきたいと思いました。 【片葩小WSP 愛知淑徳大学 3年生】

校内の掲示物や先生方のお話を聞いて、子どもたちの「楽しい」を引き出すために、さまざまな工夫がされていることに気づくことができました。子どもたちのための工夫に気づくたびに嬉しくて、私もこのような環境を体験してみたかったと思いました。また、チーム学校で動くことの大切さと、働き方改革の難しさを学びました。また機会があれば、緒川小でSPとして活動させていただきたいです。 【初参加 愛知淑徳大学 3年生】

参観者の方から質問をいただき、学校ボランティアにも興味を持ってくださる方がいるのだと思いました。今回、週プロを見たのは2回目でしたが、掲示物をゆっくり見ることができ、児童が「主体的に学びを進められるような工夫」がどんなものかを知ることができました。また、質疑応答でもあったように、児童の発達段階に合わせた教材準備が大切だと分かりました。まずは、次回のSP活動から子ども一人一人を見ることを心がけて支援をしていきたいです。 【藤江小WSP 金城学院大学 2年生】

初めて緒川小学校に来て、緒川小独自の「個別最適な学び」に向けた教育が広げられていて驚きました。本日は、オープン・タイムの時間に活動させていただきましたが、児童一人一人が自分の学びに向けた学習をしていて、自ら目標に向かっていく姿を見ることができました。今日学んだことを、同じ教師を志望している仲間と共有できたらいいなと感じました。 【東浦中・片葩小WSP 名城大学 3年生】

今日、初めて緒川小学校に行きました。校舎(建物)、掲示物、初めて見る教室、初めて聞く名前の授業にとっても驚きました。週プロの時間には、自分の席で勉強している児童もいれば、数人で小学校の授業中とは思えないような雰囲気の中で勉強している児童もいて衝撃を受けました。どの子も“勉強をしたくてしている”という雰囲気が伝わってきて、すごかったです。また、先生方が作った掲示物は、科学館などの学べる公共施設のような、クオリティの高いものばかりでした。週プロやオープン・タイムの時間を見て、先生方は児童のためにと150%の力で準備されているのだと感じました。私も児童のために、150%で頑張れる教師になりたいと思います。 【片葩小 WSP 愛知学院大学 3年生】

今日は2回目の学校視察のボランティアに参加させていただきました。午前中だけの活動でしたが、週プロでいつも以上に真剣に、集中して学習している子が多かったように感じました。特に、一斉授業ではいつもはあまり授業に参加できていない子も、週プロの時間は自分のやりたいことを見つけて、集中して取り組んでいる姿があり、印象的でした。先生方の用意した補助教材やヒントも一人一人が自分に合ったものを見つけて、使い、学習に取り組んでいました。入念な授業準備が、子どもたちが“自ら学べる”環境を作っているのだと改めて知ることができました。 【緒川小 WSP 愛知淑徳大学 3年生】

普段は緒川小学校で WSP として活動しています。今回の学校視察では、いつもは話しかけると反応があるのに今日は緊張して固まって反応があまり返ってこなかった子や、逆にいつもは授業中にぼーっとしているのに今日は集中して週プロ・OT に取り組んでいた子がいて、いつもと違った子どもの雰囲気を見ることができました。また、普段の活動では、週プロや OT など緒川小独自のカリキュラムや仕組みを詳しく知ることができないので、今回の学校視察で「個別最適な学び」について具体的にイメージをもつことができました。参観に来られていた教育委員会の方と、WSP としての普段の活動を話したり、逆に緒川小の取り組みについて感じたことを聞いたりすることもできました。教員採用試験や自治体の取り組みについての情報も得ることができ、さまざまな学校関係者の方とコミュニケーションが取れる貴重な機会になりました。参加してよかったです！ 【北部中・緒川小 WSP 愛知淑徳大学 4年

今まであまり活動したことのない1年生のクラスで今日は活動させていただきました。「先生、こっち来て～！」と困っていることを相談してくれる子もいれば、遠くの方からこちらを見て、助けを求めている子もいました。特に、声を出したいけど、積極的に助けを求められない子がいないかに注目して動くように意識しました。子どもに対しても、同僚の先生や同じ学校で働く先生にも、同じように広い視野で動ける人でありたいと思いました。 【石浜西小 WSP 岐阜聖徳大学 4年生】

「自分のクラスだけではなく、一学年の児童を見る」「一人の先生がより多くの児童を見ることができるようになると、児童を多角的に評価できるようになる。すると、児童の良い所をより探せるようになる」という言葉が最も印象に残っています。他のクラスや他の学年の児童・生徒を知ること、学年そして学校単位でつながりが生まれ、一つの物事に学校・学年単位で取り組めるようになるのではないかと私は考えました。今後教師になった時に意識できるよう、今日の事を整理しておきたいと思います。 【北部中 WSP 名城大学 2年生】

この日、16時ごろに活動が終わりましたが、私が片付けを終えて校舎を出たら、参加したSPさん全員で話をしていました。こうした学生同士の情報・意見交換の時間が楽しくもあり、大きな学びの一つになっているのではないかと思います。質の高いSPさんがたくさん在籍している東浦だからこそ、他の市町では体験できない学生さん同士での学び合いが生まれているのだと思います。